

『非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン 改訂第3版』

正 誤 表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

(2024 年 6 月 7 日作成，2025 年 7 月 28 日更新)

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1 刷	18	Summary Statement 5 行目	フェンタニル貼付剤は、先発の 4 製剤のみ非がん性慢性疼痛に保険適用があり、	フェンタニル貼付剤は、先発の製剤のみ非がん性慢性疼痛に保険適用があり、	2024/6/7
1 刷	19	表 4 タイトル	フェンタニル貼付剤の切り替え時の先行オピオイド鎮痛薬の開始方法	先行オピオイド鎮痛薬から切り替える際のフェンタニル貼付剤の開始方法	2024/6/24
1 刷	32	表 6 弱オピオイド鎮痛薬（薬品名）コデインの剤型の表記	1% [w/w]（散，錠） 10% [w/w]（散）	1% 散剤，5mg 錠 原末，10% 散剤，20mg 錠	2024/11/21
1 刷	59	CQ5-4 推奨 1 行目， Summary Statement 2 行目	緩下薬	便秘治療薬	2025/7/28
1 刷	60	表 13 タイトル	オピオイド鎮痛薬誘発性便秘の治療に用いられる主な薬剤	本邦で用いられる主要な便秘治療薬	2025/7/28
1 刷	60	本文下から 9 行目	薬物療法に用いる緩下薬は、便を軟らかくする浸透圧性下剤（酸化マグネシウム，ラクツロース）、腸蠕動運動を促進させる大腸刺激性下剤（センナ製剤，ピコスルファート）、Clチャンネル作動薬（ルビプロストン）、	薬物療法として用いる便秘治療薬は、一般緩下薬である便を軟らかくする浸透圧性下剤（酸化マグネシウム，ラクツロース）と腸蠕動運動を促進させる大腸刺激性下剤（センナ製剤，ピコスルファート）のほか、Clチャンネル作動薬（ルビプロストン）、	2025/7/28
1 刷	60	上記訂正文中「一般緩下薬」への側注の追加		一般緩下薬 本ガイドラインでは浸透圧性下剤と大腸刺激性下剤を一般緩下薬としている。	2025/7/28
1 刷	61	本文上から 2 行目	や刺激性下剤を追加する。刺激性下剤は	や大腸刺激性下剤を追加する。大腸刺激性下剤は	2025/7/28
1 刷	62	表 14 （一般名）メチルナルトレキソンの効能・効果の表記	【欧州（注射）】下剤の効果が不十分なオピオイド鎮痛薬誘発性便秘	【欧州（注射）】下剤の効果不十分なオピオイド鎮痛薬誘発性便秘	2025/7/28

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1 刷	62	本文 1 行目	オピオイド鎮痛薬誘発性便秘に対する末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬の各学会における推奨を表 15 に示す。 ナルデメジンは日本で臨床使用できる唯一の末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬である (図 3)。血液脳関門を通過せず、末梢の $\mu \cdot \kappa \cdot \delta$ オピオイド受容体を非競合的に拮抗するため、オピオイド鎮痛薬の使用量によらず、1 日 1 回の少量 (0.2mg) 内服で、オピオイド鎮痛に影響することなく、速やかに便秘および便秘関連症状を軽減させる⁸⁾。肝機能障害、腎機能障害、高齢者においても用量調節は必要なく、安全性に差はみられなかった^{1,5,9)}。	オピオイド鎮痛薬誘発性便秘に対する末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬の各学会における推奨を表 15^{8~12)} に示す。 ナルデメジンは日本で臨床使用できる唯一の末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬である (図 3)。血液脳関門を通過せず、末梢の $\mu \cdot \kappa \cdot \delta$ オピオイド受容体を非競合的に拮抗するため、オピオイド鎮痛薬の使用量によらず、1 日 1 回の少量 (0.2mg) 内服で、オピオイド鎮痛に影響することなく、速やかに便秘および便秘関連症状を軽減させる¹³⁾。肝機能障害、腎機能障害、高齢者においても用量調節は必要なく、安全性に差はみられなかった^{1,5,14)}。	2025/7/28
1 刷	63	表 15 引用表記	各学会におけるオピオイド鎮痛薬誘発性便秘に対する末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬の推奨	各学会におけるオピオイド鎮痛薬誘発性便秘に対する末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬の推奨 (文献 8 ~ 12 より作成)	2025/7/28
1 刷	63	表 15 (学会名 (発表年)) 米国消化器病学会 (2019 年) の推奨内容の表記	・<u>緩下薬</u>抵抗性のオピオイド鎮痛薬誘発性便秘において、無治療よりも、ナルデメジンの投与を推奨する。(エビデンスレベル:高, 推奨度:強) ・<u>緩下薬</u>抵抗性のオピオイド鎮痛薬誘発性便秘において、無治療よりも、ナロキセゴールの投与を推奨する。(エビデンスレベル:中, 推奨度:強) ・<u>緩下薬</u>抵抗性のオピオイド鎮痛薬誘発性便秘において、無治療よりも、メチルナルトレキソンを推奨する。(エビデンスレベル:低, 推奨度:条件付き)	・一般緩下薬抵抗性のオピオイド鎮痛薬誘発性便秘において、無治療よりも、ナルデメジンの投与を推奨する。(エビデンスレベル:高, 推奨度:強) ・一般緩下薬抵抗性のオピオイド鎮痛薬誘発性便秘において、無治療よりも、ナロキセゴールの投与を推奨する。(エビデンスレベル:中, 推奨度:強) ・一般緩下薬抵抗性のオピオイド鎮痛薬誘発性便秘において、無治療よりも、メチルナルトレキソンを推奨する。(エビデンスレベル:低, 推奨度:条件付き)	2025/7/28
1 刷	63	表 15 米国がんサポーターケア学会 (2020 年) の推奨内容の表記	・オピオイド鎮痛薬誘発性便秘の患者では、常に末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬を考慮する。(エビデンスレベル:強, 推奨度:がん患者で推奨) ・末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬に効果がないオピオイド鎮痛薬誘発性便秘の患者では、他の<u>緩下薬</u>の併用または変更を考慮する。(エビデンスレベル:低, 推奨度:提案) ・オピオイド鎮痛薬を投与されている患者では、常に<u>緩下薬</u> (または末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬) を処方すべきである。(エビデンスレベル:低, 推奨度:提案)	・オピオイド鎮痛薬誘発性便秘の患者では、常に末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬を考慮する。(エビデンスレベル:強, 推奨度:がん患者で推奨) ・末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬に効果がないオピオイド鎮痛薬誘発性便秘の患者では、他の便秘治療薬の併用または変更を考慮する。(エビデンスレベル:低, 推奨度:提案) ・オピオイド鎮痛薬を投与されている患者では、常に一般緩下薬 (または末梢性 μ オピオイド受容体拮抗薬) を処方すべきである。(エビデンスレベル:低, 推奨度:提案)	2025/7/28
1 刷	63	本文 1 行目	オピオイド鎮痛薬の開始から短期間 (3 日以内) にナルデメジンを併用することで軽減される可能性が示唆されている ¹⁰⁾ 。オピオイド鎮痛薬の開始時に既に便秘症があり、浸透圧性下剤などの <u>緩下薬</u> を使用していれば、ナルデメジンの同時処方を検討する。	オピオイド鎮痛薬の開始から短期間 (3 日以内) にナルデメジンを併用することで軽減される可能性が示唆されている ¹⁵⁾ 。オピオイド鎮痛薬の開始時に既に便秘症があり、浸透圧性下剤などの 一般緩下薬 を使用していれば、ナルデメジンの同時処方を検討する。	2025/7/28

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1 刷	65	参考文献の追加	8) Wild J et al : Onset of action of naldemedine in the treatment of opioid-induced constipation in patients with chronic noncancer pain : results from 2 randomized, placebo-controlled, phase 3 trials. Pain 160 : 2358-2364, 2019 9) Webster LR et al : A renal impairment subgroup analysis of the safety and efficacy of naldemedine for the treatment of opioid-induced constipation in patients with chronic non-cancer pain receiving opioid therapy. J Pain Res 13 : 605-612, 2020 10) Takagi Y et al : Prevention and management of diarrhea associated with naldemedine among patients receiving opioids : a retrospective cohort study. BMC Gastroenterol 20 : 25, 2020	8) Crockett SD et al : American Gastroenterological Association institute guideline on the medical management of opioid-induced constipation. Gastroenterology 156 : 218-226, 2019 9) Serra J et al : European society of neurogastroenterology and motility guidelines on functional constipation in adults. Neurogastroenterol Motil 32 : e13762, 2020 10) 日本緩和医療学会ガイドライン統括委員会 編：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020 年版, 金原出版, 2020 11) Davies A et al : MASCC recommendations on the management of constipation in patients with advanced cancer. Support Care Cancer 28 : 23-33, 2020 12) 日本消化管学会 編：便通異常症診療ガイドライン 2023, 南江堂, 2023 13) Wild J et al : Onset of action of naldemedine in the treatment of opioid-induced constipation in patients with chronic noncancer pain : results from 2 randomized, placebo-controlled, phase 3 trials. Pain 160 : 2358-2364, 2019 14) Webster LR et al : A renal impairment subgroup analysis of the safety and efficacy of naldemedine for the treatment of opioid-induced constipation in patients with chronic non-cancer pain receiving opioid therapy. J Pain Res 13 : 605-612, 2020 15) Takagi Y et al : Prevention and management of diarrhea associated with naldemedine among patients receiving opioids : a retrospective cohort study. BMC Gastroenterol 20 : 25, 2020	2025/7/28
1 刷	81	表 18 引用表記	薬物依存症に関係する人間関係の 6 つの問題（文献 8 より筆者訳）	薬物依存症に関係する人間関係の 6 つの問題（文献 8 より作成）	2024/7/3
1 刷	82	参考文献 4 行目	8) Oliver J et al : American Society for Pain Management nursing position statement : pain management in patients with substance use disorders. Pain Manag Nurs 13 : 169-183, 2012	8) 成瀬暢也：病としての依存と嗜癖. こころの科学 182 : 17-21, 2015	2024/7/3
1 刷	95	本文下から 7 行目	また、トラマドール・アセトアミノフェン配合錠についても疼痛緩和効果が確認され、近年、保険適用が追加承認された ¹¹⁾ 。しかし長期的効果については未だ明らかになっていない点に注意を要する。これらの処方を検討したのちに、鎮痛効果が未だ不十分であった場合、オキシコドン徐放性製剤が検討されることがある。オキシコドン徐放性製剤は有意に疼痛スコアと QOL を改善したという RCT が存在するが ¹²⁾ あくまでも 4 週間の結果であり、有益性・有害性に関する今後のさらなる検討が待たれる。	また、トラマドール・アセトアミノフェン配合錠についても疼痛緩和効果が確認され、近年、保険適用が追加承認された ^{11,12)} 。しかし長期的効果については未だ明らかになっていない点に注意を要する。これらの処方を検討したのちに、鎮痛効果が未だ不十分であった場合、オキシコドン徐放性製剤が検討されることがある。オキシコドン徐放性製剤は有意に疼痛スコアと QOL を改善したという RCT が存在するが ¹³⁾ あくまでも 4 週間の結果であり、有益性・有害性に関する今後のさらなる検討が待たれる。	2024/6/26

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1 刷	96	参考文献の追加	12) Naruge D et al : Tramadol/acetaminophen combination tablets in cancer patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy : A single-arm phase II study. Palliat Med Rep 1 : 25-31. 2020	12) Naruge D et al : Tramadol/acetaminophen combination tablets in cancer patients with chemotherapy-induced peripheral neuropathy : A single-arm phase II study. Palliat Med Rep 1 : 25-31. 2020 13) Watson CP et al : Controlled-release oxycodone relieves neuropathic pain : a randomized controlled trial in painful diabetic neuropathy. Pain 105 : 71-78, 2003	2024/6/26
1 刷	124	左段下から 2 行目を削除	緩下薬 59, 61		2025/7/28
1 刷	126	左段 9 行目として挿入		便秘治療薬 59, 61	2025/7/28